

薬用植物資源研究センター 吉松嘉代室長、河野徳昭主任研究員、乾貴幸特任研究員らの研究が日本植物細胞分子生物学会技術賞を受賞しました

平成 29 年 8 月 30 日

薬用植物資源研究センター 筑波研究部 育種生理研究室の吉松嘉代室長、河野徳昭主任研究員、乾貴幸特任研究員と丸善製薬株式会社、株式会社ツムラの研究チームによる「カンゾウ属植物のバイオナーサリーの構築とその応用」についての研究が、特に独創性に優れ、植物細胞分子生物学における技術の発展に大きく貢献したということで、2017 年度の日本植物細胞分子生物学会技術賞を受賞しました。

マメ科カンゾウ属の多年生植物であるウラルカンゾウの地下部は、日本で漢方薬としての使用量が最も多い生薬である甘草（かんぞう）の原料です。現在、甘草の供給は、ほとんどが中国からの輸入に依存しており、今後、様々な要因により、安定的確保が危惧されているため、国内での生産拡大が強く望まれています。本研究では、植物バイオテクノロジーを活用して、カンゾウ属植物の優良株の作出、育成や増殖についての研究を進め、甘草の国内生産の基盤構築に貢献したことが大きく評価されました。



